

お茶新聞

小学生のお茶の淹れ方のうまさにビックリ！



手もみ茶体験とお茶の淹れ方教室今年の一月に私の娘の通う小学校の三年生のクラスで、手もみ茶体験とお茶の淹れ方教室を半日使ってやりました。手もみ茶保存会の会員や日本茶アドバイザーの方にも手伝ってもらい、子供たちと保存会の会員でお茶を手もみで作り上げました。交代で、お茶のおいしい入れ方も勉強しました。自分ではかなり内容の濃い体験学習だったと思います。お茶の淹れ方では一度私が、お手本を見せて、実際に子供たちの好きなように淹れて飲んでもらいました。子供たちは、何回もていねい淹れて、みんな五煎目ぐらいまで飲んでいたので驚きでした。やる前は家でお茶の淹れたことの無い子がほとんどだろうと思いき、熱いお湯を扱うと男の子で、すぐく落ち着いていて淹れなれた子もいて、感心しました。あとで飲んでみたら子供たちが作った茶はびっくりするほど、おいしかったです。



初めての、外国人農業体験者 ハワード 旅行者が、農業体験をしながら、農家に滞在できる、ウーファーという制度があります。世界中にある制度で、旅行者も日本人に限らず、外国の人も利用できます。人から、この制度のことを聞き、私の農園でも登録してみました。千件を超える農家が登録しており、まさかすぐに、旅行者が来るとは思っていなかったのですが、三月末に、ハワードというイギリス人青年が電話をかけてきました。いきなり外国の人を受け入れるのは大変だと思いましたが、何事も経験と、受け入れることにしました。仕事も少し手伝ってもらい大変助かりました。手もみ茶の初もみ会につれて行くと、手もみの仲間にも歓迎され、新聞やテレビの取材も受け人気者でした。十日間ぐらい滞在しましたが、うちの子供たちともよく遊んでくれたりして、ちょっと、とほけたところもあっただけで良い青年でした。



2007年 新茶号

発行元
亀山市辺法寺町
811
市川大楽園製茶
お茶新聞編集部
電話 0595-85-0321
FAX0595-85-3005
<http://www.shopmie.com/dairakuen>

茶畑便り 今年二月が暖冬でした。滋賀のほうにスキーに行ったら、地面が見えているところが多かったです。三月初旬の親子サッカーのときには、夏のような暑さでした。どれほど早くなるのだろうと思っていたら、三月になってから寒く。霜で真っ白な中、まだ明けやらぬ早朝、お茶の植え付けのためパワショベルに乗っていたのを思い出します。お茶の芽も今では、ほぼ平年並みになりました。4月になってからはどうも雨が少ないようです。暖かい日が続いたのですが、雨が無いとあまり伸びないみたいです。桜の咲いているときは、雨はあまり歓迎されませんが、今となっては恵みの雨が降って欲しいですね。田んぼでは、水が少ないので、田植えができないようです。最近異常気象というか、天候不順です。昨年は、新茶が始まったとたん、雨が三日も続きました。私の場合は、いちいち気にしていても天候は変わりようがないので、この期に及んでは「鈍感力」がモットーです。

急報！地震体験。

四月十五日に亀山が最大のゆれとなる地震がありました。私は日曜日だったので、部屋の模様替えをしていました。地震の起こったときは、サンシャインパークの直売のためのお湯の用意をするため、お店の台所に向かっていた。数分前にわずかなゆれがあったので、地震があったときは、やっぱり来たかという感じでした。家の中にいる娘のことを、真っ先に思い、飛び込むように家に入りました。お店から、家に入る、わずかに数メートル行く間にも、世の中がゆがんだように感じました。ドアが開かなくなっているのは、というのが、窓ガラスが落ちてこないか、屋根のかわらが落ちてこないか、と恐怖の中、手足を必死に動かして、走りこんだ、数秒間でした。家に入ると、ゆれは、すっかりおさまっていました。二階にいた娘は何事もありませんでした。しかしすぐ手前まで、パソコンの上に載せておいた、CDが数枚散乱していました。落ち着いたところで、一階を見ると、立て付けの悪かった自作の棚に置いてあった、たくさんの写真立てが床に散らばり、ガラスが飛び散っていました。万が一その場に誰かいたら、大ケガをしていたかもしれませんが。経験して思ったのは、地震直後の最初のゆれの被害だけは受けないように、家具や、家の中のもの落ちてこないように、しなければならぬということです。常識的なことですが、今回は身にしました。最初のゆれで体に被害を受けなければ、自分や近くの人の安全を守るように行動することができます。最初の数秒が勝負なのかなと思いました。そのために、事前の準備が必要でしょう。もう起こってほしくないけれど、地球上に生きている以上地震とともに生きていかなければならないのかな、とも思いました。今回の地震でケガや家屋の損傷などの被害にあわれた方に、お見舞い申し上げます。